

かわもと

緑にこだます音楽の里

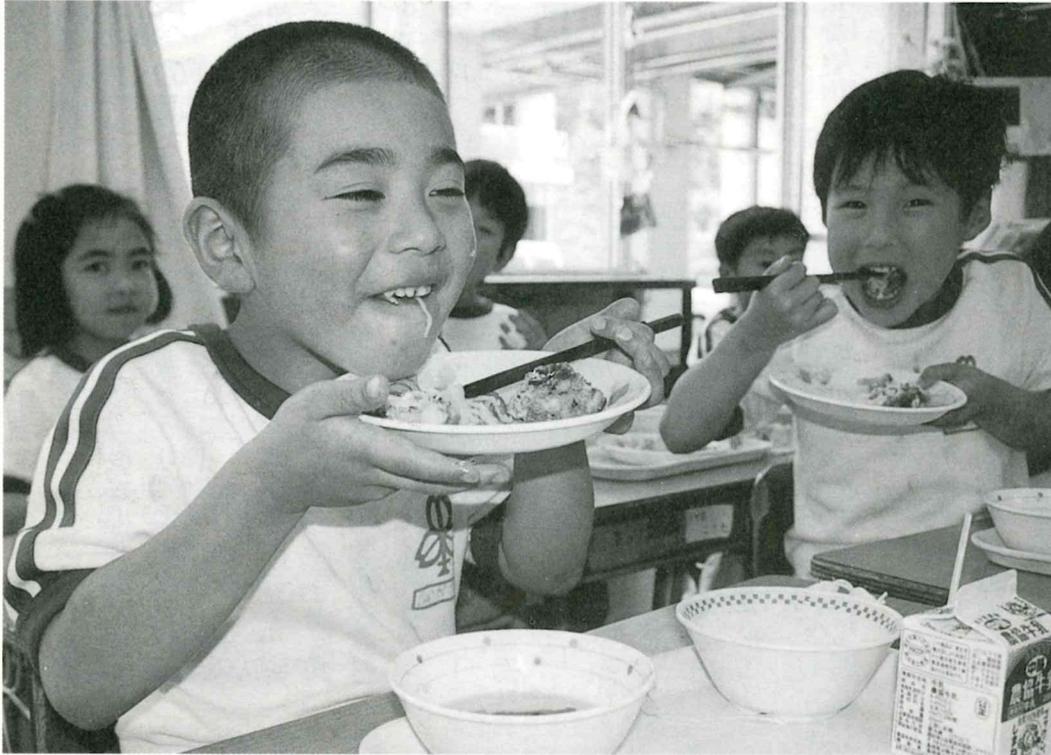
2003

6

平成15年

June No.386

http://www.kawamoto-town.jp/



地産地消を学校給食に導入し、子どもたちの「食農教育」の実践につなげる試みが全国的に広がっています。
(写真は、川本小学校の給食風景)

特集 38

「地産地消」の動き 加速する

— 食の安心・安全を背景に —

「地産地消」という言葉を聞いたことがありますか？

「新鮮で安全な地元産の食材を、地元で消費することです。この動きは、消費拡大や農業振興だけでなく、食文化への理解、地域資源の再発見などを促し、地域の活性化につながるものとして注目されています。食に対する安全志向の高まりを背景に、全国的に取り組みが広がっている「地産地消」を特集します。

背景には BSEや産地偽装問題

ことです。現在、全国各地で取り組みが進んでいます。

「地産地消推進協議会」 立ち上げ

消費者の間で、安全で安心、しかも味の良い食材に高い関心が集まるようになったのは、BSE（牛海綿状脳症）問題や産地偽装問題、さらに輸入野菜の残留農薬など、食に対する不信や不安を背景に、食の安全性にかかわる問題がクローズアップされ、地産地消という顔の見える流通システムがづくりが加速した

こうした中、大田市、邇摩郡・邑智郡は昨年九月、県の呼びかけで、生産団体、消費者、自治体などからなる「県央圏域地産地消推進協議会」（事務局・県川本農林振興センター）を設立。学校や福祉施設、小売店などへの流通システムの構築、産直市の拡充・ネットワーク化などを通して、生産者と消費者とのつながりを深めながら、地元食

特集38 加速する「地産地消」の動き

材の消費拡大や食文化の充実を目指すこととしています。

進む学校給食への導入

地産地消の展開方法は、直売所や農家レストラン、イベント会場やスーパーの一角で出店するなど、さまざまです。

中でも、学校給食への活用を通して、子どもたちが「食」や「農業」、「環境」などを学ぶ『食農教育』の実践につながる試みが増えています。

「味覚は、幼少の頃に発達します。新鮮で季節感があり、安全な地場野菜を学校給食に取り入れる試みは大切ですね。何よりも、生産者の方の「顔」が子どもたちに伝わるのが一番の効果」。――。

長年、乳幼児の食事指導にかかわり、今春、川本小学校に赴任、町内小・中学校の給食の献立づくり・食材の発注に携わっている栄養士の藤田玲子さんは、地産地消の取り組みの良さを、このように話しています。

同小・中学校での県内産食材の導入率は、▽100%：米、なす、トマト、乾燥椎茸など▽七五%：きゅうり、大根など▽五〇%：玉ねぎ、ピーマン、白菜など▽四〇%：ごぼうなど(平成十四年度実績)となっており、町内の農家で採れた地元産の食材は、まだ少ない状況にあります。

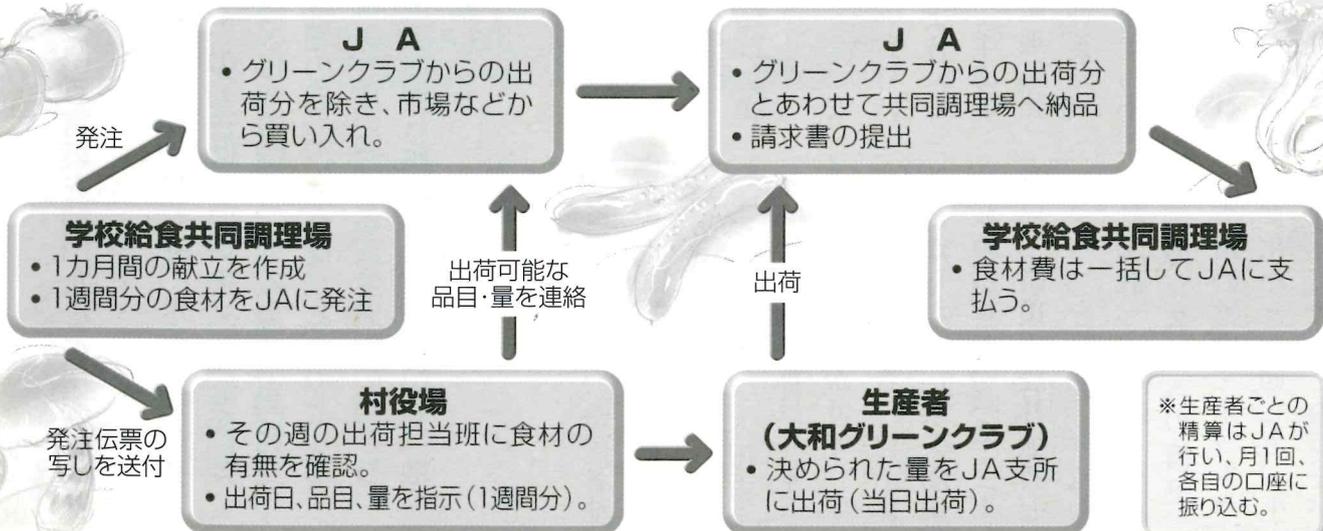
藤田さんは、生産者・行政・JA・学校など、関係機関の連携を強調した上で、「調理面では、ほうれん草や白菜などの葉菜類は、かなりの量を必要としますが、にんじんや玉ねぎ、大根などの根菜類は、比較的(導入が)楽なのではないでしょうか」と期待を寄せています。

健康志向や食品の安全性の中から高まってきた地産地消。この動きは、高齢化が進む中山間地の農業活性化や地場流通の拡大だけでなく、子どもたちにも、食と健康の関心を促したり、多様な地域資源を再発見し、身近な地域や社会を知る大切な学びの場としても、根を下ろしつつあります。

大和村学校給食供給システム

資料提供
島根県川本農林振興センター

- 村役場(事務局).....供給組織「大和グリーンクラブ」の運営管理。出荷品目、量の調整。
- 大和グリーンクラブ.....村内を5地区に分け、1週間ごとに交代で出荷。
- 学校給食共同調理場.....献立の作成。
- J A.....食材の納品、出荷者ごとの精算・支払い。
- 川本農林振興センター.....生産計画作成支援、栽培技術指導。



特集38 加速する「地産地消」の動き

インタビュー interview

地産地消の意義などについて、島根県川本農林振興センターの今岡久美子さんに聞きました。

—地産地消がクローズアップされていますね。

「『地場生産・地場消費』を略した言葉で、地域で生産された安全で安心できる食材を、その地域で消費することです。身近なところで採れたものを食べる、ということはおくく自然なことですが、食材の加工技術や物流が発達した現代、生産者と消費者が、顔の見える関係”にあることは、むしろ難しいことになってきています」

—その背景は何でしょうか。

「BSE問題をきっかけに、食の安全性について関心が高まってきたからです。この間、食の安全をめぐる国などの動きはめざましいものがあります。国ではJAS法（農林水産業製品について統一規格を定めたもの）や農薬取締法を強化。県でも、JAS法に基づく食品品質表示の相談窓口を設置し、消費者に基軸をおいた生産を促すよう方向転換しています」

「加えて、農産物の価格低迷や農業従事者の高齢化に伴う農業の活力低下、食生活の乱れによる生活習慣

病の増加など、私たちが取りまく環境は大きく様変わりしてきました。この様な中から、従来の大量生産大量消費という農業のあり方を見直し、地産地消という、生産者の顔が見える流通”が注目されたわけです」

—地産地消ではどのような取り組みが展開されていますか。

「一般的には▽安心・安全・新鮮

「望まれる 川本らしい」地産地消



島根県川本農林振興センター
生活改良普及専門員
今岡久美子さん

な食材の供給▽心と体を育む食と地域農業の関わりなどを学ぶ『食農教育』の推進▽環境保全を柱とし、直売所や農家レストランを設けるなど、さまざまな戦略を展開しています。地場産コーナーをのぞくと、生産者の名前や栽培方法などを記した札をおくなど、工夫も見られます。最近では、学校給食に地元の野菜な

どを使う取り組みも進んでいます」
—邑智郡での取り組みはいかがですか。

「大和村では、平成十二年に村内の農業生産者で組織する『大和グリーンクラブ』（会員二十三人・事務局は村役場）を設立。毎日約二百食（小・中学校四校）の給食を調理している学校給食共同調理場に、玉ねぎやジャガイモ、キャベツなどを提供しています（注・供給システムは二頁を参照）。きっかけは、農家で作った旬の野菜を食べさせたい、という熱い思いからでした」

「給食に出荷するもの以外は、週に二回開設する青空市で販売もしています。役場や学校栄養士、県の関係者などを交えて定例会を開いたり、研修会では、栽培技術の向上や消費者の情報収集などに努めています」

—「県では今年度『地産地消流通システム構築支援事業』を打ち出し、学校給食への食材供給や産直市の取り組みなどをサポートしていきます。県央圏域でも多くの町村が事業実施を要望しているところです」

—地産地消の取り組みは、今後さらに活発そうですね。

「そうですね。学校給食を例に挙げると、地元野菜は大きさや形が微妙に異なるため、調理作業に手間取ったり、注分量が揃わないこともあるでしょう。しかし、季節感があり新鮮、そして何よりも、子どもたちにとって、食の安全性や健康への関心を育む良さがあります。地域資源を見直すという、生きた教材になっていくことを期待しています」

—地産地消の展開について、アドバイスをお願いします。

「生産者は食材の導入にあたり、▽給食で使われている食材の量、時期、価格などの把握▽地域の旬の食材調査、一覧表作成▽保護者や子どもへのアンケート調査など、情報の収集・共有を図っていただきたいですね。流通も、これまでの『市場流通から市場外流通へ』システムを変えなければなりませんし、商店との利害調整も必要でしょう。生産者の生きがい対策から、ひいては経済効果につながることを願っています。そのためにも、行政の支援は欠かせませんね」

「川本の地形はバラエティーに富んでおり、食材が豊富。熱心な生産者、活動者の方も多くいらっしゃいます。関係機関が歩み寄りながら、地域連携による「川本らしい」地産地消が根づくことを願っています」
—ありがとうございました。

まちの ま 話 題 の



酒づくりの会 田植え

6/1

酒米の苗植えや稲刈り、仕込みなど、純米吟醸酒づくりを体験する「こだわりの酒づくりの会」による田植えが三原であり、県内外から訪れた会員40人が参加。地元小学生が打ち鳴らす郷土芸能・田植えばやしに響き渡る中、秋の豊作を願いながら「山田錦」の苗を丁寧に植え付けました。



住民参加ミュージカル 制作発表

5/21

マンガ「地球の秘密」を書き残し、12年前に亡くなった斐川町の坪田愛華さん（当時小学6年）の意志をモチーフにした地球環境保護を願う住民参加型ミュージカル「愛と地球と競売人」が10月18日・19日、悠邑ふるさと会館で上演されます。川本公演は住民の再上演を求める声を受けて行うもので、平成13年に続いて2回目。今回は、富山県で開かれる世界芸術祭にも出演し、文化の香り高い音楽の町をアピールします。（※写真は平成13年の川本公演）

重症急性呼吸器症候群 (SARS・^{サーズ}新型肺炎)について

◆流行地域から入国した方へ

潜伏期間は10日間といわれています。この間は念のため、家族・友人を含め人に会うのは最小限にして、濃厚な接触はできるだけ避けたり、外出時はできるだけマスクを着用するよう心がけましょう。

発熱、せき、呼吸困難の
症状が一つでも出たら…

島根県県央保健所
衛生指導課
(☎0854-84-9807)
に電話相談を。

- 休日、夜間は守衛がです。用件を伝えれば担当者からあなたへ折り返し電話を差し上げます。

大田市立病院
(☎0854-82-0330)
または最寄りの
医療機関へ電話を。

予約が必要です

- 感染流行地域から帰国したことを告げ予約を取る。
- 受診時はマスクを着用する。
- 公共交通機関の利用は避ける。

◆感染症を防ぐには…

感染症を引き起こす病原体は、目や鼻、口、性器などの粘膜や傷口から体内に進入するものもありますので、粘膜に病原体が接しないようにすることが効果的です。また、バランスの良い食事や、睡眠を十分とり、体力・抵抗力を維持することも大切です。

◆病原体の進入を防ぐには…

- 外出後などは石けんなどによる手洗いやうがいを徹底する。
- ドアのノブや手すりなど、他者が触れるものに触った手で、目や鼻、口などを触らない。
- 不特定多数の人が集まる場所はなるべく避ける。
- 感染の可能性が高いところでは、飛沫の進入を防ぐようにマスクをする。

30件の請求がありました

—平成14年度 川本町情報公開制度実施状況—

平成14年度の情報公開条例に基づく公文書の請求受付件数は30件、内容により分類すると38件になりました。

決定内容は38件のうち、公開決定20件、部分公開決定3件、非公開決定12件、取下げ3件です。

部分公開決定したものの主な理由は、個人情報に関する部分を公開しなかったことによります。

非公開決定したものの理由は、個人情報や実施機関以外の組織に関するもの、また、該当する公文書が存在しなかったことによります。

なお、これらの決定に対する異議申し立てはありませんでした。

平成14年度情報公開の実施状況

1. 請求件数

請求件数	対象文書数
30	38

2. 内容

担当課	対象文書数	決定区分			
		全部公開	部分公開	非公開	取下げ
企画財政課	12	7		3	2
建設課	7	1	2	4	
総務課	6	5		1	
住民課	3			3	
農林振興課	2	1	1		
出納室	2	1		1	
監査委員事務局	2	2			
議会事務局	1	1			
健康福祉課	1	1			
教育課	1	1			
水道環境課	1				1
合計	38	20	3	12	3

3. 請求者 町内に住所を有する者 …30件

4. 公開に伴う写しの交付

請求件数 ……………21件
請求枚数 ……………236枚



民家で陶芸品展

「癒し」をテーマに味わいのある手仕事の作品を展示した「陶芸もどき展」が因原で開かれ、町内外から大勢の陶芸愛好家などが訪れました。技術向上を目指し、因原で陶芸に取り組む堂面とき子さんが地元の仲間や陶芸職人に呼びかけて開き、今年で3回目。会場の民家には、お皿や花びんなど丹誠込めた陶芸品が展示されました。

安全運転心がけて



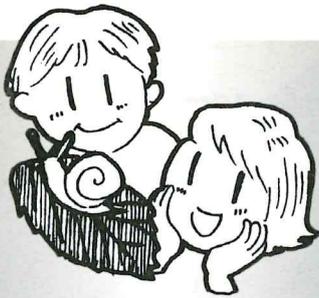
春の全国安全運動の一つとして、町交通安全対策協議会や交通安全母の会などでは、国道沿いのインフォメーションセンター前に「交通安全テント村」を開設。「安全運転をしてくださいね」と道行くドライバーに交通マナーを呼びかけるチラシなどを手渡しました。



石見交通バス
運行出発式

生活路線として親しまれてきた中国JRバスの路線バス「川本線」が3月末で廃止。4月から引き継ぐことになった石見交通(株)の運行出発式が石見川本駅であり、運行開始を祝いました。川本線は、川本一大田間の増便、川本一邑智病院間の路線新設など、通院や通学の利便性の向上を図っています。

問合せ 役場総務課 ☎0855-72-0631



交 差 点 情 報

川本町役場総務課

〒696-8501

島根県邑智郡川本町大字川本545-1

☎ 0855-72-0631

Fax 0855-72-0635

Hp <http://www.kawamoto-town.jp/>

E-mail kawamoto@kawamoto-town.jp

♂ 男 2,180人 (2,232)

♀ 女 2,329人 (2,392)

♂♀ 計 4,509人 (4,624)

うち65歳以上 1,628人 (1,629)

うち15歳未満 467人 (494)

🏠 世帯数 1,975戸 (2,009)

平成15年6月1日現在の住民登録による
()は前年同月



募 集

土砂災害防止の絵画等

6月の土砂災害防止月間活動の一つとして、土砂災害や防止対策の理解と関心を深めてもらうために「絵画」「ポスター」「作文」を募集しています。優秀作品には表彰状と副賞を、応募者全員に記念品をお贈りします。

対 象 小学生、中学生

課 題 土砂災害(がけ崩れ、土石流、地すべり等)や、その防止対策に関するもの。

応募締切 9月12日(必着)

問合せ 島根県土木部砂防課
☎0852-22-5206

第21回江の川アドベンチャーレース

今年も江の川の水流に乗って楽しく遊べるチャンス到来!手づくりイカダで川下りにチャレンジしませんか?今回は乗船者のユニークな仮装を競う特別賞などを新設!

開催日 8月2日(土)

コース 仙岩寺下から桜江町鹿賀までの10km

参加料 1人2,000円(保険料含)

賞 金 優勝 10万円

準優勝 5万円

3 位 3万円

その他、特別賞あり

申込締切 7月4日(金)

申込・問合せ

江の川アドベンチャーレース
実行委員会(町商工会内)

☎0855-72-0123

よさこい踊りに参加しよう

8月2日の「ええなあまつりカワモト」で「よさこいにっぽん」の本場・高知県から、プロのグループが来町。一緒に踊りませんか!(*当日までに数回、練習を予定しています。)

申込締切 6月30日(月)

申込・問合せ 町商工会

☎0855-72-0123

難病ボランティア研修

難病患者家族会の活動や生活支援にたずさわる方を育成する「難病ボランティア育成研修会」の受講生を募集します。

研修日程

7月17日(木) 13:30~16:00

大田集合庁舎別館(大田市長久町)・開校式、難病とは、他

8月8日(金) 13:30~16:00

大田集合庁舎別館

・「パーキンソン病患者家族

の会」体験談、他

9月4日(木) 10:00~15:00

さんべ荘(大田市三瓶町)

●パーキンソン病患者家族交流会、他

9月26日(金) 13:30~16:00

大田集合庁舎別館

●これからの活動について

募集人員 20人

問合せ 島根県川本健康福祉センター医事難病係

☎0855-72-9689

放送大学10月入学生

放送大学とはテレビ放送を利用して講義を行う正規の大学です。1科目の受講から大学・大学院卒業資格取得までニーズにあった学習が自宅です。

募集の種類

【学部生】

①科目履修生(6カ月在籍)

②選科履修生(1年在籍)

③全科履修生(4年以上、卒業希望者)

【大学院生】

①修士科目生(6カ月在籍)

②修士全科目生(2年以上、修了希望者)

募集期間

6月15日~8月31日まで。ただし修士全科目生は9月1日~9月14日まで。

資料請求・問合せ

放送大学島根学習センター

☎0852-28-5500



暮らし

介護保険

介護保険制度の円滑で効果的な推進を図るため「介護保険事業計画」(平成15年度~19年度)を見直しました。重点項目は次のとおりです。

子ども歳時記 - file 20 -



地元小学生が、笛や鐘の音に合わせて軽快なバチさばきを披露しました。

photo: 2003.6.1 「こだわりの酒づくりの会」田植えにて

リレーエッセイ

私の趣味

38

橋本 満

— 川本町谷 —

「私の職場」

私の職場は、加藤病院の向かい側にあるグループホーム「あいあいの家」という小さなお家です。そこで、九人のおじいちゃん、おばあちゃんと毎日過ごしています。



「あいあいの家」のおばあちゃんたちと

最近、暖かい日が続くようになり、今年も畑仕事を始めました。昨年は野菜が中心でしたが、今年はスイカ作りに挑戦します。果たしてスイカは上手くできるのでしょうか？ 今からとても楽しみです。ここに来ると、時間がゆっくり動いているのを感じます。「この方たちと同じ世界を感じたい」と思っていますが、つい自分のペースで話を進めてしまい反省しています。

おじいちゃん、おばあちゃん子で育った私は、浜田にいる四人のおじいちゃん、おばあちゃん、そして「あいあいの家」の九人のおじいちゃん、おばあちゃんをととても大切に思います。これからも一緒に遊びましょう。

編集後記

恥ずかしながら不摂生がたたり数日間、高熱が続きました。大切な会や約束を次々とキャンセルするはめに。▼偶然、今回の特集「地産地消」で、「身土不二（しんど

ぶじ）」という言葉に出会いました。「人の生命と健康は食べ物で支えられ、その食べ物も土が育てる。生命と健康はその食べ物と共にある」。旬の新鮮なものを食べるのが一番いいという意味のようですが、いい教訓になりました。(K)

広報かわもと 6月 No.386

発行/川本町役場 編集/総務課

〒696-8501 鳥取県智都川本町大字川本545番地1

TEL.0855-72-0631 FAX.0855-72-0635

平成15年6月20日発行

ホームページアドレス http://www.kawamoto-town.jp/ E-メールアドレス kawamoto@kawamoto-town.jp